

### 研究会活動は自分の好きなことを、 そして仲間作りを

リージョナルステート研究会の平成17年度の活動は最終的な段階に入りました。私達は、普段からやりたいことがあっても、なかなか実行出来ないものです。しかし、仲間がいて一緒にやれば、互い刺激あって出来ることもあります。スタンスの違う技術士が話し合う、目標を定める、行動する、意味を確認する、この一連の行動が実行への早道です。そのための各自が動くエネルギーの源は、自分の好きなことをする、興味あることをする、仕事に係ることがある、すなわち明確な目標を持つことです。

さて、技術士の社会における必要性は、益々大きいと言わざるを得ません、しかもその内容は明確になりつつあります。倫理観があって社会ニースにすばやく答えられる技術者です。相手のニースを的確に把握し、相手の言葉で語ることを出来る技術者が、社会から信頼されます。各専門分野の確かな技術力の提供と同時に、目標設定とそれを推進するコーディネーターの役割が必要です。研究会はその実行の場でもあります。

当研究会活動は、活動の中心を分科会において運営を当事者に任せて、現場に入って具体的に実行をすると共に、全体としても、当研究会の主旨の徹底、交流の拡大、レベルアップのために、全体行事の開催、他の分科会の案内、全体の情報交換会を開催して交流することを図っています。やはり皆さんが集まって、勉強になり、楽しく、刺激的でなければ成らないと思います。そのためには時代の流れの半歩先を考えること、同志を作ること、具体的に行動をすること、だと考えます。

今年度も残りあとわずか、来年度の目標設定、行

動計画を立てましょう。

(文責：研究会会長 市村 一志)

### 自然科学教育分科会

今年度も残り少なくなりました。少し早めですが、平成17年度の分科会活動を振り返り、代表的な出来事をトピック風にまとめて見ました。前回までの報告と重複する部分もありますが、ご容赦下さい。

#### 1. 寿都サバイバルキャンプ、今年も大成功

寿都町の教育委員会が主催するキャンプで、毎年分科会の一大イベントとなっています。前回も報告しましたが、今年度は1泊2日の日程で、分科会員・サポーターの他、教育大学生の協力を得て賑やかに楽しく終えることが出来ました。

今後も寿都町と分科会の良い関係を継続させたいものです。

#### 2. キタヒロ昆虫隊、これからもよろしく

前回の報告にもありましたが、「キタヒロ昆虫隊」とは、北広島の公民館を拠点に子供達の自然科学教育をしているグループで、今年度から当分科会との交流が始まりました。今年度の活動では、公民館の庭を借りて栽培したさつまいもを秋に収穫し、「キタヒロ」の子供達と一緒に味わって楽しみました。

これからも、お互いのグループが協力した活動が展開されることを期待しています。

#### 3. 白石区川まつり2年ぶりの参加

毎年、寿都町キャンプの準備と日程が重なる白石区のイベントですが、今年度は2年ぶりに参加することが出来ました。今後も白石区在住の会員・サポーターが中心となり、当分科会の一つのテーマである「地域に根付いた活動」を目指したいと思います。

これらの他、小・中学校等の教育サポート、定例分科会、清田区における重点活動、技術士会全国紙への投稿、パンフレットの改訂など、今年度も会員・サポーターは様々な場面で大いに活躍しました。

また、平成17年度は教育大の女子学生が分科会活動に加わり、会員に新鮮な刺激を与えてくれました。

これからも、楽しくアクティブに活動を続けていきたいと思えます。

(文責：分科会幹事 赤松 周平)

## 観光分科会

### 現地視察ツアー「ニセコに行こう」実施に向けて

前号(107号)でお伝えした成田一憲氏(北海道経済部観光のくにつくり推進室長)の勉強会においても、H11年度～16年度の観光客は、道内客、道外客、宿泊延べ数とも減少している。その中で、外国人観光客のみが順調に推移し、特に、台湾・香港・韓国・オーストラリアなどの伸びが目立っています。

特にニセコヒラフ地区を中心にオーストラリアからのスキー客が急増していることや、そうしたオーストラリアからの旅行者を対象とした、様々な旅行サービスやコンドミニウム等の建設等の開発投資も活発に行われています。

オーストラリアからのスキー客の急増の背景には、パウダースノーといわれる本地区の雪質の高さが要因と言われていますが、その他にもカナダ、ヨーロッパと比較して時差が少ないこと、旅行費用が安価なこと等、様々な要因が挙げられます。またニセコ地区でアウトドアビジネスを始めた実業家たちからの口コミによる情報発信なども大きな要因となっているようです。

しかし一方では、急激な外国人旅行者の増加等に地域の受入側の混乱や外国資本の開発投資等による地価の高騰や乱開発など様々な課題も抱えています。

観光分科会では、2月～3月にかけて、こうしたニセコ地域の現状と課題についての勉強会を兼ねた現地視察ツアーを企画する予定ですので、ふるってご参加ください。なお合わせて観光分科会への入会も

随時受け付けていますので、下記までお問い合わせください。

宮武 miyatake@readjust.co.jp

(文責：分科会座長 宮武 清志)

## 循環技術システム研究分科会

### 1. 最近の活動

今年度は環境・循環・エネルギー等のキーワードのもとに毎回、メンバーの専門分野から貴重な提言をいただいていた続けてきました。最近の勉強会は下記のテーマで開催しています。

#### ○10月定例会 雪冰冷熱の利用

「雪のピラミッドと真夏の遊雪館」

雪氷を冷房に使用する試みは、試行段階から既に実用段階に達し、公共施設をはじめ種々の分野に使用されています。「雪のピラミッドと真夏の遊雪館」は、冷房利用と共に、真夏に雪氷を展示し観光に使用する目的で、札幌商工会議所他の協力により2004、2005年夏に札幌市大通り2丁目テレビ塔前にて開催されたものです。永瀬技術士より実施に当たった技術的な問題・解決および苦労した点を語っていただきました。



雪冷房装置「雪うちわ」

#### ○12月定例会 懇親会(情報交換会)

今年度は大変真面目に勉強会・見学会を続けてきましたが、少々息切れがしてきましたので、年末に

は懇親会を開催しました。メンバーの多くが集まり、大変なごやかな雰囲気では進んだと思います。

## 2. 今後の活動予定

2月にはエネルギー関係施設の見学会を予定しています。エネルギーの重要さは今更説く必要ありませんが、省エネルギー関連法案の改正も間近に迫っています。興味がある方はぜひおいで下さい。

(文責：分科会事務局 外 朝彦)

## 地域主権分科会

### 1. はじめに

リージョナルステート研究会は、設立以来6年目を迎えますが、平成17年度から分科会の一つとして、新しく私どもの「地域主権研究会」が設立されました。当研究会では地方分権、権限委譲、人口減少、市町村合併、地域経済等私たちを取り巻く社会経済情勢を踏まえて、これからの北海道のまちづくり、地域づくり、社会資本整備のあり方などを検討・研究し、技術士として、社会に提案・提言し、行動することを目的としています。当研究会では、隔月に1度程度研究会を開催し、メンバーの自由な発想の下に各種のテーマを議論・検討しています。

### 2. 当研究会のメンバー

当研究会メンバーは現在20人で構成されています。メンバーの所属は官公庁、コンサルタント、メーカーなど多岐に亘っており、技術士の登録部門は建設部門を中心に、上下水道部門、農業部門、環境部門等から構成されています。

### 3. 研究会の活動報告

当研究会は第1回目の研究会を平成17年6月21日に開催し、以来、9月6日、11月1日、12月14日と合計4回開催しました。今回は第2回目の研究会の検討結果を報告します。

第2回目の研究会では、次のような意見が出されました。

・土木学会から「人口減少下の社会資本整備のあり方」に関する提言資料があるので、これをベースにして議論を進めてはどうか。

・人口減少下の社会資本整備の手法として、エリアを拡大し既存のインフラを活用することを、事例を挙げて検討してはどうか。

・経済学的に生産性を維持していくことを考える必要があるのではないか。

・今後の地域社会においては、大型店舗などの効率的なやり方を参考にして生産性を上げる方策を提言してはどうか。

・社会資本整備のあり方としては、誰のためにどうあるべきかといった議論をする必要がある地域主権のあり方を見極めるために、権限委譲や市町村合併を議論した方が良いのではないか。

・都市圏、農業圏、地方圏など地域別に議論してみてもどうか。

・提言する相手を誰にするか、ターゲットをどこにするかを決めてから議論すべきではないか。市町村なのか。地域の住民なのか。

・出生率を上げるためにはどうしたらよいか。年収を高く設定しなければ、ゆとりある生活・文化などが維持できないのではないか。

・人口減少社会のあり方にテーマをしばって議論した方が良いのではないか。

・多様なテーマが考えられるので、アンケート調査を行ってテーマを特定してみてもどうか。

※ 次回は検討テーマに関するアンケート調査の結果について報告します。

(文責：分科会幹事 中田 光治)